

開発を進める。防災科学技術研究所の火山観測網等のデータ（地震計、傾斜計、GNSS等）の受信やデータベースへの保存、処理、表示、管理機能の一部を開発し、利用可能なデータから処理や保存を進める。データの処理機能としては、震源決定機能の強化、GNSSデータのリアルタイム解析など既存の基本処理を実装し、処理を進める。また、本事業の各課題を実施する際の問題についての意見交換、情報共有等を行うため火山研究運営委員会を2回、本事業に参画する若手研究者の研鑽・交流等のための研究集会を2回、それぞれ開催するとともに、本事業に関連する情報（事業の内容、取組状況等）について掲載する専用ホームページの更新、その他次世代火山研究推進事業の推進に必要な業務を実施する。また、火山研究運営委員会にデータ流通に関するワーキンググループを設置し、データ流通促進の仕組み作りの検討を行う。

4. 活動報告

4. 1 会議録

(1) 第1回火山研究運営委員会

開催日時 2016年11月21日（月）10時00分～12時00分

開催場所 防災科学技術研究所 東京会議室

議題

議事運営について

各研究課題の概要について

今後の予定について

その他

(2) キックオフシンポジウム

開催日時：2017年1月27日（金）13時～

開催場所：東京大学地震研究所2号館5階 第一会議室

目的：課題A～Eの連携

4. 2 対外的発表

なし

5. むすび

本年度、いくつかの大学を訪問し、火山観測データの一元化に対する懸念や要望などを伺い、ある程度、課題が把握できた。その中には、火山観測データの無制限な流通には反対という意見があった。火山観測データを無制限に流通させ、誰が何の目的で利用しているのか、またどんな研究を行っているのかわからないような利用の仕方は、本課題の目的である研究分野間・組織間の連携を促して火山研究をより活性化させることには必ずしもつながらないので、この意見は理解できる。平成29年度は、このような課題等についてワーキンググループで検討を行い、火山研究をより活性化させるデータ流通の仕組みを具体化させる予定である。